



IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM

GR86/BRZ Race
PROFESSIONAL Series

**2年目の平木湧也に躍進の兆しあり、予選は自己最上位！
それだけに悔やまれる決勝**



GR86/BRZ Race PROFESSIONAL Series 第1戦
2018年3月31日～4月1日 鈴鹿サーキット(三重県)
晴れ 8周(34台出走)
予選14番手/決勝28位
ドライバー：平木 湧也
メカニック：鈴木 健之
メカニック：木村 裕美



茨城トヨペトルレーシングは参戦4年目となるGR86/BRZレースに、昨年に引き続き平木湧也選手を擁してプロフェッショナルシリーズに挑む。今年の平木選手は3年間戦ったFIA-F4を卒業し、スーパーGT、スーパー耐久にも参戦が決定。より多忙を極めることとなるが、数多く積み重ねる経験を、大いに活かしてくれることが期待されている。

その開幕戦の舞台となったのは鈴鹿サーキット、3月31日に予選が、そして4月1日に決勝レースが開催された。オフの間に2回テストを行っているサーキットながら、いずれもコンディションに恵まれず、完全ドライでの走行はこのレースウィークから。スポーツ走行で4セッション走った後、最終調整となる金曜日の専有走行では、後半をセット変更で時間を費やし、予選シミュレーションの1周しかできず、2分32秒934を記すに留まっていた。しかし、GR86/BRZレースも2年目とあって、平木選手に焦りの様子は一切ない。車載映像の確認で、修正すべきポイントはしっかり把握していた。

予選は午後4時から、20分間の計測で行われた。今回は併催のスーパー耐久とW参戦であり、その予選から1時間と経たないうちに走らなくてはならなかった平木選手だったが、周囲の心配をよそに、イメージトレーニングをしっかりと行って、気持ちの切り替えも完全にできていたという。今までは、はやる気持ちを抑えられないかのように、計測開始とともにピットを離れていったが、今回は折り返しを過ぎてからのアタックを自ら名乗り上げる。その方がクリアラップを取りやすく、また先にライバルが走行することで、コンディションが向上しやすいからだ。もちろん、その逆も然りなのだが……。

実際、開始11分で赤旗が出され、計測中断となってタイミングを逸したドライバーも少なからず存在したが、その時まだ平木選手はピット。再開後によりやくピットを離れた平木選手は、入念にチェックを行った後、予定どおりワンアタックを敢行する。ひとつひとつ丁寧に、かつ大胆にコーナーを攻めていき、2分32秒104をマークして、その時点での9番手につけることとなる。

その後、5人にタイムを上回られてしまったため、最終的なポジションは14番手となったが、これは平木選手にとってベストリザルト。7列目からのスタートであれば、初めての入賞が現実味を帯びる。スタッフにも笑顔が溢れることとなった。

「このレースウィークはずっと安定して上の方において、専有走行こそ今ひとつでしたが、去年に比べればす

ごく自信もありました。本当のことを言えば、もっと行けたかな……というのもあるんですが、コンスタントラップには自信があるので、開幕戦は荒れることが多いですから、ちょっと強気に、しかも冷静に行きたいと思います」と平木選手。

決勝レースは開けて日曜日の午前9時10分からスタート進行が開始。平木選手がカラーリングとゼッケンを18に改めた、「茨城トヨペット 86レーシング」をグリッドに並べると、前方からは束の間のグリッドウォークを楽しもうというファンが押し寄せる。これもドライバーのテンションを上げる重要な要素である。ほどなくして人だかりも引いて、いよいよフォーメーションラップを迎えることに。

注目のスタートは……。クラッチミートのタイミングは完璧だった平木選手ながら、ホイールスピンが大きく、出遅れてしまい1コーナーでの位置取りに失敗。これで順位を落とす。1周目を終えたところで19番手ながら、次の周には16番手にまで挽回、さらに前後を脇阪寿一選手、服部尚貴選手といったレジェンドドライバーに囲まれた、なかなか得難い状態でバトルを繰り返す。

そして、5周目のシケインで脇阪選手に迫るも、痛恨のオーバーシュートが……。これで31番手にまで後退してしまう。それでも諦めることなく平木選手は前を行く車両をパスし続け、29位でゴール。その後、上位にペナルティが課せられたため、最終的にはひとつ順位を上げて28位に。もちろん、納得のいく結果ではないが、今年の平木選手ならば必ず巻き返しをはかれるはずだ。次回のレースは4月28日、29日に再びスーパー耐久と併せて、スポーツランドSUGOで行われる。



平木湧也選手のコメント



決勝レースは、スタートの反応はすごく良かったんですが、その後掻いちゃって。スタートで出遅れたまま1コーナーに並走して入っていったんですけど、場所取りがうまくいかず順位を下げてしまいました。その後は脇阪選手や服部選手とのバトルとなり、脇阪選手に迫っていったんですが、シケインでイン側閉めていたので、僕はアウトから行ったら脱輪して、芝生だったので止まらなくて順位を落とし……。もったいなかったです。ただ、今回はいつもより前の順位でスタートできましたし、さらにもう少し予選の順位が良かったら、こんな混乱もない、楽なレース展開になったと思います。でも、やっと去年より上のレベルで戦える自信もつきましたし、まだまだ上に行けると思っているので、次回の課題を予選として、しっかり走ります！ご声援、よろしくお願いいたします。

メカニックのコメント ～鈴木 健之（営業支援部 営業活動推進課）～



今回でGR86/BRZ Raceのメカニックを務めるのが3回目なのですが、毎回来るたびにチームとドライバーのレベルが上がっていて、今後のIBARAKI TOYOPET RACINGに期待しています。また、チームスタッフ全員でレースウィークを楽しむことができました。今回は今までみたいに大きなトラブルがなかったので、覚悟はしてきたんですが（笑）、セットアップもスムーズに進んで走りきれたので、良かったと思います。また、次の機会も頑張りたいと思います。

メカニックのコメント ～木村 裕美（営業支援部 サービス支援課）～



GR86/BRZ Raceは初参加なので、初めは何をしていいのかわからず、指示をもらってそれで動くという形だったのですが、テスト初日にいろいろ教えていただきセットアップ作業を理解することができました。今回、レースでは「コミュニケーション」が大事だと思いましたね。ドライバーから話を聞いて、監督からの指示をしっかり行って、やった作業とかを全員で共有しておかないと、変なセッティングにもなってしまいますので、連携をとりながらやっていくのが大事なんだと実感しました。

チーム監督のコメント ～石川 一郎（FUN TO DRIVE 推進グループ）～



GR86/BRZ Race 第1戦 鈴鹿サーキットの結果は、予選：14位、決勝：28位
ご支援、ご声援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
今回、開幕戦に向けて事前テストを2回行いましたが、いずれもウエットで天候に恵まれず、ドライでの走行はこのレースウィークからとなりましたが、チームスタッフ全員で協力しセットアップ作業を行い、予選14位とポイントを狙える位置につけました。決勝レースは残念が結果となりましたが、予選も含め、内容は濃くなっており、チームもドライバーもひとまわり成長した感じが大きいのがうかがえます。GR86/BRZ Race 第2戦は、4月29日にスポーツランドSUGOで行われます。より質の高いレースができるよう、今回得たデータをもとに次戦に向けて準備したと思います。ご声援、よろしくお願いいたします。

GR86/BRZ Race

Racing Development
TRD

AMU

BILLION
OILS

BRIDE